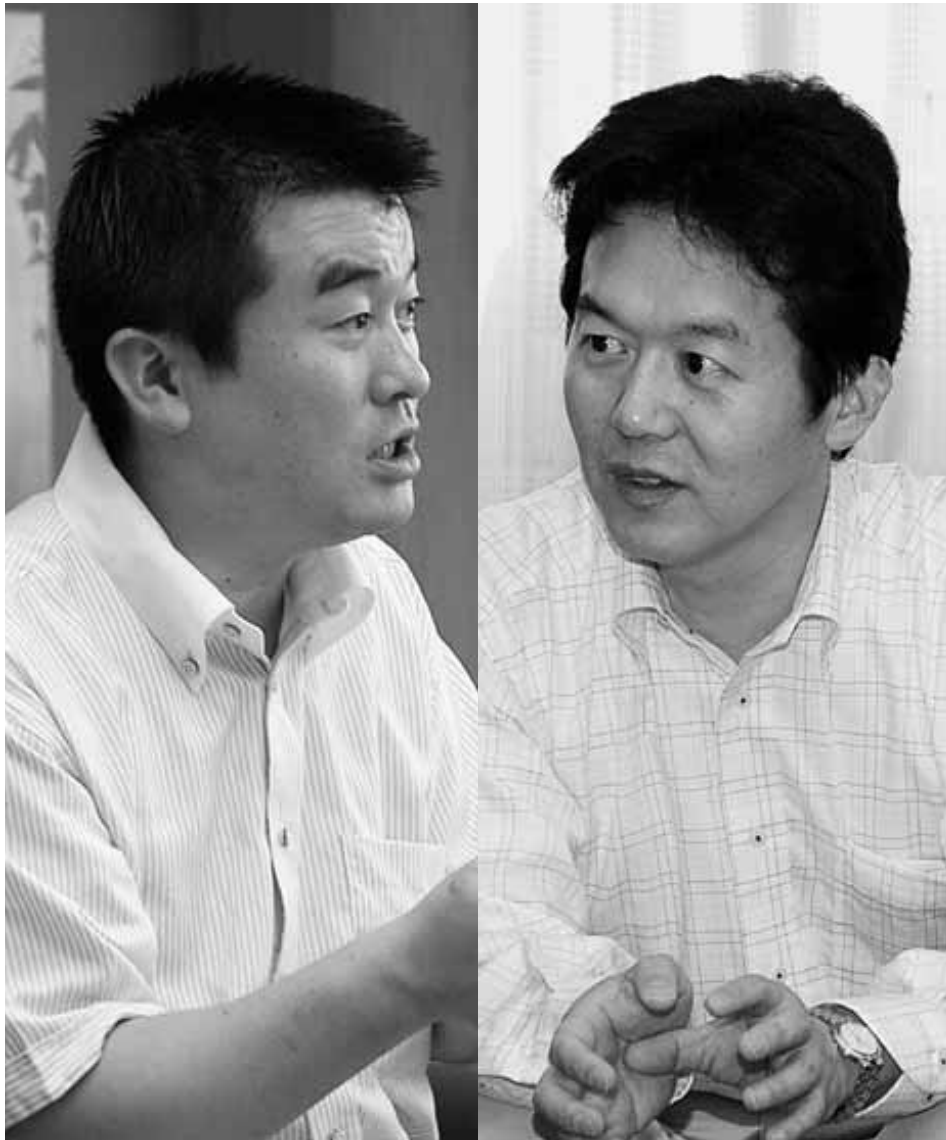


気象から学ぶ「地域防災」



7月15日、市内在住の気象予報士・大野治夫さんをお招きしての対談が実現。サラリーマンから気象予報士に転身した意外(?)なきっかけ、これからの地域防災のあり方についてなど、さまざまな話題で盛り上がりました。



市長 大野さん、初めまして。今日はようこそおいでくださいました。

大野 初めまして。

市長 大野さんのことは、以前から、私の友人や大野さんの同級生の方からお聞きして、いまして、ぜひお会いしたいと思っていました。今日はいろいろなお話を聞かせていただきたいと思いますので、よろしく願います。

大野 こちらこそ、よろしく願います。

市長 さっそくですが、大野さんは何年生まれですか？

大野 昭和31年生まれです。

市長 もう本庄東中学校ができていたころですか？

大野 東中の9回目の卒業生です。

市長 そのころから、お天気に興味があったんですか？

大野 いえ、全然。理科は好

きでしたけど、物や植物を観察したり、育てたり、星や天気とか、そういうのは嫌いなほうでしたね。(笑)

市長 では、気象には特に関心はなかった？

大野 祖父母がよく天気の話をしていたので、気象のことは、何となく知ってはいたんです。だから、少しは気にしていましたけれど…。あとは子どもができてから、スキーに行くときなどに、こっちのスキー場のほうが2〜3時間早く晴れるとか、風がやむとか、そういうのがわかったらいいな、と思って。

市長 それは、気象予報士になる前からですか？

大野 ええ。何かするときに

出かけるときに知っているために、そういう気象がいいのか、ということですね。

市長 それは、気象予報士になる前からですか？

大野 ええ。何かするときに

出かけるときに知っているために、そういう気象がいいのか、ということですね。

市長 もともと、大学で機械が何かを専攻されていたということですが？

大野 ええ、機械科でした。熱力学や流体力学があつて、それがそのままお天気にあてはまったので、気象予報士の試験を受けるときも、天気の勉強を専門にする必要はほとんどなかったんです。

市長 大学を卒業されて、最初はどちらにご就職されたんですか？

大野 群馬県新田町（現在は太田市）の自動車の部品、セルモーターなどを作っている会社に15年勤めていました。市長 お勤めをされていたのに、お天気の世界に身を投じたのは？

大野 もともと、気象予報士の資格を取ろうと思っていたわけではないんです。ちょうどそのころ、気象予報士の第1回目の試験があつて、森田正光さんがその試験に落ちてしまったんですよ。たまたま、電車の中でその話をしている人たちがいて、それを聞いていたら、森田さんに「がんばって」って言いたくなつたんですよ。きつと、森田さんは2回目の試験を受けるに違いないと思つて、私も試験



おのはるお 大野治夫さん（気象予報士）

1956（昭和31）年生まれ。39歳でサラリーマンから気象予報士に転身。現在は、ラジオやテレビでお天気キャスターとして活躍中。生まれも育ちも本庄という生粋の「本庄っ子」。牧西在住。

を受けたんです。それがきつかけだつたんですよ。（笑）

市長 森田さんと面識はあったんですか？

大野 あるわけないじゃない！（笑）

市長 「がんばって！」って言えたんですか？（笑）

大野 一生懸命、森田さんを探したんですけど、試験会場が違つたんですよ。会えませんでした。（笑）

市長 昔は、天気予報つてすぐ固いイメージがありました。お天気キャスターもすつかりお茶の間の人気者になりましたよ。お天気に関心を持つて、見て

いるからなんでしょうね。大野 やっぱ、生活するために天気予報が必要だから

しょうね。天気そのものが好きな人なんて、なかなかいないと思いますよ。

市長 私は結構好きですよ。雨雲レーダーとか見ていると「お、来る来る」とか。大野 災害が起きるかもしれないと？

市長 いやいや、災害が起きるには困りますから…。でも、最初の動機は、結局そういうことですよ。ひょうなどが降つて、農作物に被害があつたら、市役所の職員はすぐに飛んでいかなければなりませんし…。

大野 そうですよ。市長 もし、土砂災害や浸水被害が出たら大変ですから、市長として関心を持たざるを得ないんです。最近では癖になつてしまつて、毎朝、雨雲

レーダーを見るようになりました。ところで、いまはもうなくなつてしまいましたが、昔、本庄には気象台のようなものがあつたそうですね。大野 ええ。測候所があつて、普通の観測だけでなく、風船をあげての高層観測なども行われていたようです。市長 そういつたものは、どうしたら置けるんでしょう？

大野 そうですね…。気象庁も予算削減がすすんでいるので難しいと思います。本庄市の費用で設置して、データを送つてもらつたということであれば可能かもしれませんが。できれば、置いてほしいですね。アメダスに相当するものもありますから、そういうも



のを市役所や土砂災害が起る確率が高そうな場所に置くといいと思います。それに、危険度が高いというわけではありませんが、ここには深谷断層もありますしね。

市長 もともと、本庄には断層はないと言われていたんですよ。それが、最近になつて、深谷断層の延長があるという話で…。いま、市役所の

口ビーでは、市民のみなさんにも見ていただけるように防災マップを張り出してあるんですよ。周辺で大きな地震があつたときでも、そんなに揺れないんですけれどね。

大野 割と揺れにくい場所だと言われていますよ。標高の低いほうは、利根川の土が堆積したところだから、少しは揺れやすいけれど、関東南部に比べるといいほうですよ。

市長 関東大震災のときには大野さんの地元にある藤田小学校は、少し傾いてしまつたそうですね。それから、昭和6年に起きた西埼玉地震でも、藤田地区では液状化現象が起きたり、家が倒れたりしたと聞いています。やっぱ観測機械などの装置はあつたほうがいいですね。

大野 ぜひ、お願いします。